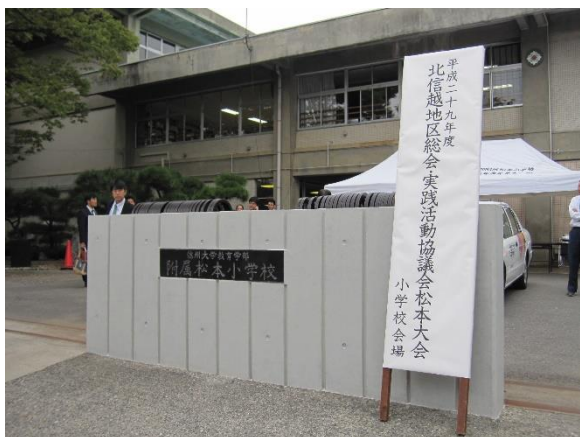




全附北信越松本大会に参加して

6日(金)、全附北信越の大会が、主題「附属学校園のあるべき姿を考える～地域教育の発展と地域に生きる附属学校園のあり方～」のもとに、信州大学教育学部附属松本学校園を会場として行われました。本校からも教員6名、ふたば会執行部6名が参加しました。午前中は、各学校種に分かれて教育活動参加をしました。附属松本小は敷地が広く、子供たちが動植物に触れる機会が豊かであると感じました。



午後からは、部会が行われました。私は、各学校園のPTAの方と「地域に愛され、地域の中で生きていく附属学校園の姿」「附属学校園を支えるPTAのあり方」を視点到にグループ協議をしました。ある学校園の保護者の方が「登下校中の子供の振る舞いが気になる」と言われたことに端を発し、「電車やバスで小さい子がランドセルを担いでいる時点で、地域の方は『附属の子だな』と分かる。その子の交通マナーが悪いことで附属の印象が悪くなる」……。どこの附属も同じだなと聞いていました。課題解決に向けた取組については、「交通マナーについての集いをする」「腕章を付けて、登下校を見守るボランティアをする」という本校でも行っている取組もあれば、「悪いことばかりではなく、よいこともお知らせする」「子供が描いた絵を缶バッチにして身につける」等、PTAとしての取組についての意見も出てきました。国立教員養成大学・学部・附属学校の改革に関する有識者会議の報告が出され、附属の存続の危機も言われる中、地域に愛される附属であるためには、登下校のマナー一つをとっても小さな問題ではないと思います。



※松本から帰ってきたら、早速、5日(木)の下校バスで、運転手さんに厳しく注意されたと報告がありました。走行中に立ち歩く、うるさいことが原因のようです。学校でも指導しますが、おうちの方でも、お子さんの発達の段階に合わせて話してあげてください。

その他、地域の人と関わる機会を増やすということで、「交流祭りやバザーの案内を回覧板で回し、地域の人にも附属に来てもらう」「運動会等の学校行事に、『地域席』を設ける」「保護者自身が地域の活動に積極的に参加する」等の意見が出ていました。

さて、全附北信越大会に先立って、5日（木）に副校舎長会があり、私は皆さんより一足先に松本へ行きました。北信越地区の26名の副校舎長が集まり、情報交換をしました。ここでの話題はもっぱら「働き方改革」「多忙化の解消」でした。この件については、有識者会議でも優先度が高く、「公立学校のモデルとならなければいけない附属学校が多忙化の解消に取り組まなくて、どうするのだ！」というものです。特に、研究発表会や教育実習の持ち方について、重点的に情報交換をしましたが、各学校園で取組が大きく違うということが分かりました。研究発表会や教育実習に限らず、これまで本校では、一つ一つの行事や取組を少しずつ縮小することで、多忙化の解消を図ってきましたが、もう限界が来ています。これまで続けてきたことを思い切って無くすことも考えないといけないなと感じました。

最後に、PTA執行部の皆さんには、当日の朝、午前5時30分に学校集合、午後11時過ぎに学校到着・解散とハードスケジュールの中、お仕事を休んで参加していただきました。附属小学校のために、本当にありがとうございました。

創校 140 周年に向けて

創校 140 周年記念式典まで、残すところ1ヶ月近くになりました。現在、クラス合唱の練習はもちろんのこと、6年生有志による劇「附属・歴史・発見！～附属小学校140年の歩み～」の練習も本格的に始まりました。楽しみにしててください。

また、事前にお話ししていたとおり、ふたば会と同窓会のご支援で、体育館演台の校章と花台を新調していただきました。併せて、ピカピカに修復していただきました。創校 140 周年記念式典には、県民会館まで運ぶことはできないので、ご披露できないのですが、書面にて報告させていただきます。ありがとうございました。大事に使わせていただきます。



本校教員も頑張っています！

毎年、9月に富山大学教育学窓会の総会・記念式典があります。その中で、優れた教育実践をしている県内の現職教員を対象に、教育研究奨励賞が授賞されています。今回、めでたく阿久津教諭が宮地社会科教育賞を受賞しました。

また、奥村教諭が教育公務員弘済会の課題研究奨励賞を受賞し、16日の表彰式に参加します。

本校教員の努力が認められることは、たいへんうれしいことです。

(副校長 曲 師 政 隆)